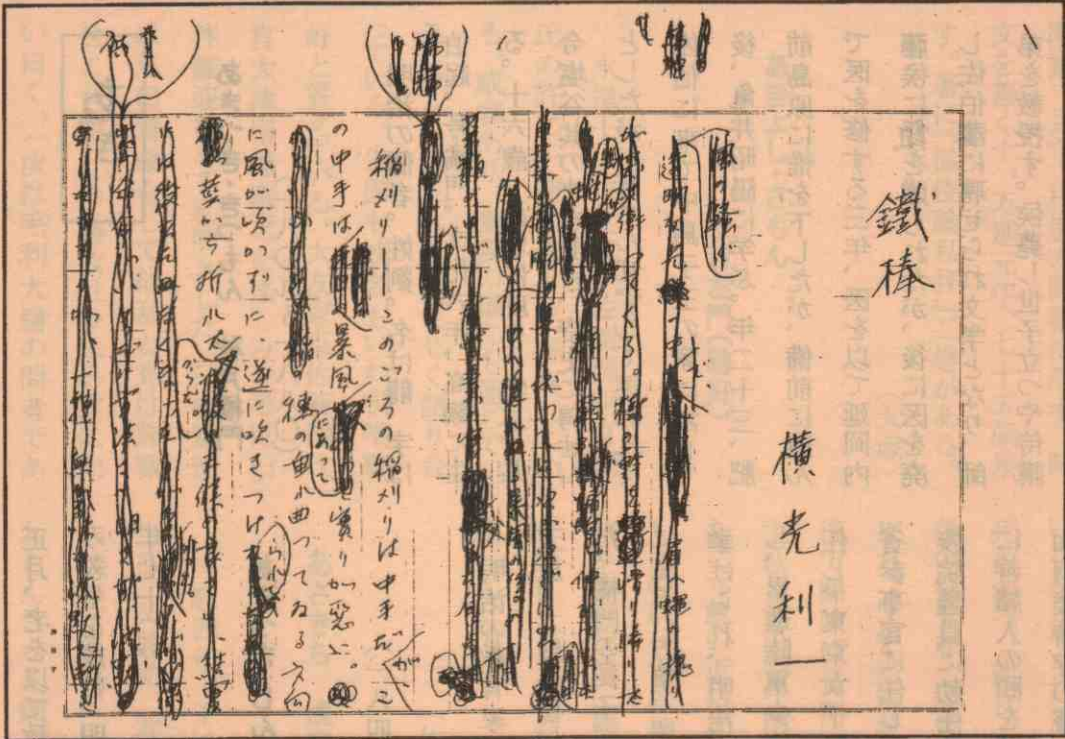


宇佐市民図書館 2002.08

郷土スペース月報

〒879-0453 大分県宇佐市上田1017-1 TEL.0978-33-4600 FAX.0978-33-4679
http://www.usa-public-library.jp/



目次

- ◆ 今月の表紙・横光利一の小説草稿「鉄棒」(二枚目)
- ◆ 「鉄棒」(部分) / 横光利一
- ◆ 龍膽・小野精一編「大分県人名辞典」本文編(3)
- ◆ 新着郷土資料目録・平成十四(二〇〇二)年【7月】

今月の表紙 横光利一の小説草稿「鉄棒」。20枚完。ペン書。横光家旧蔵資料。宇佐市所蔵(三和文庫)。「夜の靴」、「古戦場」と類似した内容が見られ、独立した短編としてまとめようとした形跡がある。昭和20年頃執筆。『定本横光利一全集』第16巻(河出書房新社)の「雑纂=小説別稿」の部に全文収録。

4 2 1 1

鉄棒 (部分)

横光利一

稲刈り——このごろの稲刈りは中手だが、この中手は暴風にあつて実りが悪い。穂の垂れ曲つてゐる方向に風が吹かずに、逆に吹きつけられて茎から折れたからだ。そこへ、闇買ひの忍び足が、どのやうな値で誘ひよるか待つ農家の触觉は、表面鈍感さうに見えながら、内外刻刻の多忙な変化に随ひ微妙に色を変へていきつつあるやうだ。

「ああ、やつとこれで、死なずにすんだのう。」

稲刈を眺めて立断をする農婦がある。実際ここ一週間ほど前まで、去年の供出で米の無くなつた農家が多く、雨中を借り歩くものたちが、もう死ぬもう死ぬと、鈍重な声をあげてゐた朝夕もやつとすんだところである。

龍膽・小野精一編 大分県人名辞典 本文編(3)

遺族から宇佐市に寄託された自筆原稿より、本文を順次紹介しています。
収録人名一覧は、No.7(2000.10)～No.14(2002.5)に連載しました。

あき

あきつききつもん 秋月橋門

(二八〇九～一八八〇)

明治の儒者。姓劉。名は龍。字は伯起。号橋門。文化六年、高鍋に生る。十六歳、淡窓に就き、学ぶ。県令塩谷其の才を聞き、侍史に聘せんとしたが、肯えんぜずして逐われて佐伯に来て中島子玉の家に寓し、後、亀井昭陽に学ぶ。年二十三、肥前島原に惟を下したが、備前に遊んで医を修する三年、医を以て延岡内藤侯に饗を贈られたが、後に医を廃し佐伯藩に聘せられ文学となり、師弟を教授す。侯薨し世子立つや侍講となり、明治元年、参河県知事に任ぜらる。未だ任に赴かずして葛飾県の知事となる。時に年六十。同三年

正月、老を以て致仕す。晩年仏に潛み殺生を戒む。明治十三年四月歿。年七十二。

(大典)

あきつきしんたろう

秋月新太郎

(二八四一～一九一三)

明治の教育家。名新。字士新。号天放。大愚愚仏知雨楼とも号していた。橋門の長子。天保十二年、佐伯に生る。万里、淡窓に学び、藩儒に挙げられ、明治四年、兵部に出仕し、累進陸軍少佐、爾後、諮官に歴任し、東京女子師範学校長兼文部省参事官に任じ、明治三十二年、貴族院議員に勅任せらる。性篤孝、時に善謔人の頤を解く。詩を能くし、知雨楼詩存の著あり。書を善くし、晩年水墨山水を画く。筆力亦遒勁に富んでいた。大正二年五月十日歿

あきつきせきそう 秋月石窓

(一八四三～一九〇九)

府内の人。名友三郎又種行。維新後、教と改め石窓と号す。毛利空桑、上野敬齋に学び、画を杏雨に学ぶ。詩友に大城冠山、高島研山がある。大分典獄に任じ、明治十年以後、長崎裁判所判事となる。傍ら和歌、詩、俳句、画を嗜む。掛冠後、二分二十三銀行法律顧問となる。明治四十二年、六十七歳で歿す。

(大塚)

あきやまぎよくさん 秋山玉山

(一七〇二～一七六三)

熊本儒員。諱定政。字子羽。通称儀右衛門。玉山又青柯と号す。鶴崎の人。父中川定勝。元禄十五年生

る。叔父秋山需庵の嗣子となり、秋山を冒す。儒を熊本水足屏山(需庵の妻の兄)に学ぶ。享保八年、藩主細川宣紀擢て儒員に列す。同年、宣紀に扈従し、昌平黌に学ぶ。留る四年、大学頭林鳳岡病あり、玉山代つて講ず。人栄となす。次いで宗孝、重賢二代に仕え恩寵愈に隆く。宝暦三年、藩学を起すべく建言す。重賢之を納れ、時習館を興し、玉山を教授とす。同十三年、病あり。然も吟詠を廢せず、十二月十一日、辞世の一詩を大書して逝く。享年六十二。大正五年、正五位を贈る。玉山詩集等遺著あり。

あきよし・うんけい 秋吉雲桂

(二七八六～一八六〇)

杵築藩八坂村の人。通称豊章。名質。号雲桂又錦水。晩年、快雲堂と称した。長崎の吉雄耕平に学び、後、京都吉雄中神に従学、京師に開

あきよし・さもん

秋吉左門(聴好)

(大塚)

業。文政九年、有栖川家侍医となり、天保十年、法橋を授けられ、十二年、法眼を賜る。後帰り、八坂に開業。且つ、村里の開発に尽す。詩文を善くす。万延元年、七十五歳歿す。著に『温疫論私評』二巻がある。

永禄十一年二月、佐賀関祠官開氏の許に一箇の美少年寄寓している。威容あり、敷島の道にも通じている。春日の神子とも睦まじく語り合っている。生国も姓名もいわず唯聴好と答えている。大友家臣佐賀関代官大津留鑑康之を怪しみ、老臣臼杵鑑速をして糺明させた。臼杵鑑速は疋田勝政をして胡乱と見は誅戮せよと命じた。勝政は少年の寓に向い曰く、「汝は毛利大膳の問者であ

あさきち 浅吉

(一八二二～一八七四)

文政四年、下毛郡槻木字高田に生る。父甚助、葺山妨害事件で獄せられた。朝吉大に歎き、身を以て代わらんことを願ったが許されぬ。然

る。余は太守の命で汝を誅すべく向つた、如何」と、問い詰めた。少年覚悟の態にて微笑し、「此場に至って何かいわん、早く打たれよ」と頭延ばして死を待つ。此日十一月二十一日元就の将元春、隆景等筑前に進軍して来た。少年の臨終に天晴れであった。後で聞けば長門国美祿郡秋吉の城主秋吉清忠の嫡男秋吉左門であった。元就の近侍の士で、聴好と自称したのは秋吉の替字であろうと、遺骸を正念寺に埋め、毎月二十一日を祭日とし、聴好社とも秋吉社とも称している。

(佐賀関史・興慶記)

し、其謹慎ぶり、家業出精の事が藩侯の耳に達し、父も赦免になり、褒美に小麦二俵まで賜わった。褒状は天保十年亥三月に下附されたが、其恩賜に感じ、其他の生産物を精選して年々献上したので、其度毎に褒状を賜い、山の口各庄屋に進められた。其献米七年に及んだという。弘化五年の褒状もあるが、安政三年には庄屋格に、嘉永四年には木杯を、慶応元年には銚子を賜わり、明治三年には屋敷の免税という恩命に接しているのみならず、藩侯に面謁を許された。明治七年、享年五十四歳で歿した。

(下毛郡誌)

バックナンバーは
中央カウンターで
さしあげます。

新着郷土資料目録 平成14(2002)年【7月】

書名/人名/出版社/出版年(月)/請求記号/(備考)

図書館学 80/西日本図書館学会/2002.3/A010ニ/(寄贈)

のぼって くだって またのぼる ~暑い別府の夏~

/別府大学司書講習文集委員/2002.6/A010へ/(寄贈)

大分県文化年鑑 2001/大分県芸術文化振興会議/2002.3/A059オ/(寄贈)

史料館研究紀要 第7号/大分県立先哲史料館/2002.3/A069オ/(寄贈)

大いなり 帆足萬里先生/日出町教育委員会/帆足萬里祭実行委員会/1991.6/A112ヒ/(寄贈)

四国太平記/田村直一/2002.7/A175タ/(寄贈)

院内町の文化財/院内町教育委員会/2002.3/A215イ/(寄贈)

大蔵永常/豊田寛三/大分県教育委員会/2002.3/A289オ/(寄贈)

大分ガイド/大分県広報公聴課/2002.3/A290オ/(寄贈)

伊能中図 大日本沿海実測図/日本国際地図学会/武揚堂/1993/A290.34/(三和文庫)

新瀬戸内紀行/瀬戸内・海の路ネットワーク事務局/2001.7/A291.7セ/(寄贈)

大分川へ行こう『ふるさとの遺産』シリーズ④/大分みらい信用金庫/2002.4/A294オ/(寄贈)

平成14年6月 第三回宇佐市定例会会議録/宇佐市議会/2002.6/A314.5ウ/(寄贈)

大分県殉国乃遺影/大分県遺族会連合会/1976/A390オ/(保管転換)

大分県の水道 平成12年度/大分県生活環境部/2002.3/A518オ/(寄贈)

国宝富貴寺/大仏次郎/淡交社/1972/A702.1オ/(寄贈)

鶴岡が生んだ人びと/鶴岡市教育委員会/2002.3/A910 Y02/(寄贈)

笹舟 短歌集/清瀬善治/2002.7/A911.1キ/(寄贈)

葦生 合同句集/大隈淳一/安心院俳句会/2002.7/A911.37/(寄贈)

大分県詩集 2002年版/大分県詩人協会/2002.4/A911.5オ/(寄贈)

日輪(改造文庫)/横光利一/改造社/1929/A913 Y29/(寄贈)

考へる葦/横光利一/大阪:創元社/1939/A914 Y39/(寄贈)

戦争裁判余録/豊田隈雄/泰生社/1986/A916ト/(寄贈)